

株式会社 をくだ屋技研

「O.P.K」のハンドリフトで
国内トップシェア海外
発注可
納期
相談
企画力
自信有
コスト
相談
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン

国内シェア約50%のハンドリフト

業務内容
油圧ポンプをベースにした
ハンドリフトを製造販売

「をくだ屋技研」は油圧ポンプをベースにしたハンドリフトを製造販売する。「O.P.K」ブランドで知られ、国内で約50%のシェアを占めるトップメーカーだ。長年にわたり蓄積した数多くの独自技術をもとに、規格品や顧客のニーズに合わせた特注品など多彩な製品を世に送り出している。

フォークリフトが使えない環境で、ハンドリフトは重量物の搬送に欠かせない器具となっている。林正善社長は「ユーザーが見えてくると、つくるときのスタンスが変わってくる。私はそれをダイナミックな楽しみととらえている」と強調する。

強み
完成品まで一貫生産
社員の新製品提案を奨励

林社長が「ハンドリフトは油圧ポンプの技術がないとつけない。油圧ポンプを二からつくっていること、最終完成品メーカーであることが強み」と説明するように、コア技術は油圧ポンプの開発・製造技術。研究開発から製造、アフターケアまで一貫体制の完成品メーカーとしてユーザーの生の声にすばやく対応する。

一方、新製品の提案をした社員にポイントがたまる社内制度を導入し、新製品を次々と生み出す仕組みを築く。林社長は「会社の利益に貢献する確率は1,000分の1ぐらいだが、打ち続けていればいつかヒットは出る」と語る。

海外展開
マレーシアと中国で
現地の需要を開拓

経済のグローバル化にいち早く対応し、平成8年にマレーシア、平成18年に中国に

製造拠点を開設した。両拠点はそれぞれ55名前後の社員が働く。海外の製造拠点は主に日本で販売する製品を途中段階まで製作する役割を担い、売上高の80%~90%を日本の本社向けに輸出する。今後は現地の需要を積極的に開拓する。

中国、マレーシアや周辺の東南アジア諸国では規格品を中心にニーズがあり、近年は特注品を要望する日系企業や現地企業が増えている。これらに対応することで、4年後には両拠点とも売上高の半分が現地販売になると計画している。

今後の展望
関西大学とトレーニング用
車いすを共同開発

日常生活の中で移動しながら、自分の力で足の筋力を鍛える「トレーニング用車いす」を関西大学と共同開発し、平成28年に販売を開始。油圧ポンプの技術を応用することで医療・福祉機器業界への進出を果たした。同社は新たな事業の柱を模索しており、医療・福祉機器は有力な候補。環境機器の分野も視野に入れる。「取りかかったばかりで、我々の知らない業界なので勉強しているところ。今のうちに次の分野に挑戦したい」と林社長。BtoB、BtoCはこだわらないが、今後も最終完成品メーカーにこだわりたいとしている。



コア技術となる油圧ポンプ

トレーニング用車いす
「Joyfum (ジョイフム)」

当社の歴史



「をくだ屋技研」は高圧エアポンプから始まり、昭和39年にパレットトラックを開発して運搬機業界に進出。物流や製造の現場で圧倒的な支持を頂きました。業界のトップランナーとして社会的責任と使命を自覚し、製品の開発と改良を提案しつつ、新規の分野にも果敢に取り組んでいます。

代表取締役社長 林 正善さん

大阪29 ISO 9001 ISO 14001

主な事業内容

荷役運搬機械、環境機器、介護福祉機器の製造販売

主な取引先(納入先)

大手機械商社、大手フォークリフトメーカー

●住所 〒587-0011 堺市美原区 丹上263
●TEL 072-362-2111
●FAX 072-362-2115
●創業 昭和9年
●設立 昭和29年11月
●資本金 9,650万円
●従業員 117名

<http://www.opk.co.jp/>